

社会貢献活動

社会貢献に対する考え方

当社は、持続可能な社会の実現に貢献するために、「小野薬品社会貢献グローバルポリシー」のもと、さまざまな社会貢献活動を行っています。現在および将来の事業活動との関連性や自社の経営資源を考慮し、当社が注力すべき重点分野を決めたうえで取り組みを推進しています。

小野薬品社会貢献グローバルポリシー

小野薬品は「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、医学・薬学の発展はもとより、「良き企業市民」として、社会の持続的な発展に貢献します。また、これらの取り組みを通じて、SDGsの達成にも貢献します。本グローバルポリシーは、海外子会社にも適応されます。

- 医学・薬学の発展に貢献します。
- 患者さんとその家族の健康に貢献します。
- あらゆる生命の存続に資する環境保全に貢献します。
- 子どもたちの健康につながる教育に貢献します。
- 医療環境の整備に貢献します。

上記活動に関する慈善寄付に関しては、透明性をもって実施します。

対象エリアは当社が事業活動を行う地域と医療基盤が未成熟な地域*とします。

* 世界銀行が定める低所得国及び低中所得国など

低所得国：<http://data.worldbank.org/income-level/low-income>

低中所得国：<https://data.worldbank.org/income-level/lower-middle-income>

会社と社員の協力のもと、そして志を同じくするステークホルダーとパートナーシップを組み、社会貢献に取り組みます。

取り組み一覧

	関連する SDGs	取り組み
医学・薬学の発展のための取り組み	 	・公益財団法人 小野医学研究財団を通じた研究助成 ・ONO Pharma Foundationを通じた研究助成 ・一般社団法人 小野薬品がん・免疫・神経研究財団を通じた研究助成 ・公益社団法人 日本生化学会を通じた研究助成
患者さんとその家族のための取り組み		・WEBサイトやアプリを通じた医療情報の発信 ・市民公開セミナーへの協力・開催 ・ラジオ番組『Changeの瞬間～がんサバイバーストーリー』を通じた情報提供 ・リレー・フォー・ライフへの参加 ・そらぶちキッズキャンプへのサポート ・Being Alive Japanとの取り組み ・“Nutrition care box”をがん患者さんへ届ける活動（台湾小野薬品） ・米国でのがん患者さんの支援活動 ・献血の実施
あらゆる生命の存続に資する環境保全	  	・各事業所における自然保護活動（清掃・防災活動など）
子どもたちの健康につながる教育	 	・理科の出張授業（薬のヒミツ・マナブ） ・高等学校でのがん教育に対する取り組み ・歯ブラシの寄贈 ・劇団四季／一般財団法人舞台芸術センター主催「こころの劇場」関西公演への協賛
医療環境の整備のための取り組み	 	・ONO Bridge Projectを通じた取り組み

2022年度までの活動

- すこやかラダ大作戦（2014年度～2021年度）：

東日本大震災復興支援活動として、東北3県（福島県、宮城県、岩手県）の社会的課題の一つである小児肥満改善をはじめ、次世代を担う子どもたちの健康の推進と心身ともにすこやかな成長を応援する目的で実施していた活動です。

 詳細はこちらをご確認ください（252KB）

医学・薬学の発展のための取り組み

当社は、いまだ満たされていない医療ニーズに応え、医学・薬学の発展に寄与する取り組みを行っています。

財団を通じての研究助成

当社は、医学・薬学の発展のため公益財団法人に寄付や研究助成を行っています。

公益財団法人小野医学研究財団

本財団は、脂質代謝異常の分野に関する研究助成を行うほか、各種事業を通じて、当分野の治療や研究の振興を図り、国民の健康と福祉に貢献しています。設立以来毎年、研究助成および研究奨励助成を行っており、2022年度には、早石修記念賞1名、研究助成対象者15名、研究奨励助成対象者（満40歳以下）15名が、それぞれ選ばれました。

ONO Pharma Foundation

本財団は、特定の科学研究分野における創造的なアイデアを持つ科学者の主任研究員（「PI：Principal Investigator」）を支援することを目的にしています。研究助成を通じて、患者さんの画期的な治療につながるイノベーションの支援、若手研究者の研究促進等に貢献しています。

一般財団法人「小野薬品がん・免疫・神経研究財団」

2022年度に設立した本財団では多くのアンメットメディカルニーズが残るがん・免疫・神経の領域において、画期的な研究成果（Breakthrough）に繋がる最先端の科学・研究者を支援することによって世界の人々の健康に貢献することを目指しています。

公益社団法人日本生化学会

生命科学全般に関わる生化学研究に意欲的な研究者の海外留学のための新事業「早石修記念海外留学助成」に対し、2017年度から支援を行っています。2023年度の対象者として、2022年10月に8名の研究者の方への支援が採択されています。

患者さんとその家族のための取り組み

当社は患者さんとその家族をはじめとして、広く人々の健康に資するために、さまざまな活動に取り組んでいます。今後も人々の健康の一助になるさまざまな活動に、継続的に取り組んでいきます。

医療情報の発信

コンテンツやアプリを通じ、継続的に医療に役立つ最新の情報を広く発信しています。また、疾患啓発や正しい情報の発信を目的とした疾病関連の市民公開セミナーへの協力・開催も行っています。2022年度はリウマチ、慢性腎臓病などの領域を中心に3回Webで実施し、約1000名の方が参加されました。

提供コンテンツとアプリ	取り組み内容
「患者さんご家族の皆さまへ」	身近な病気の具体的な症状や治療、普段心がけることを解説するサイトを運営
「ONO ONCOLOGY (一般・患者さん向け情報)」	監修医の協力を得て、がん領域の疾患や治療、がん免疫の概念を学ぶことができるサイトを運営 2022年度は、心と暮らしをサポートする目的で、周囲とのコミュニケーションの取り方や情報収集方法に関する「医師が答えるAYA世代・働く世代の相談室」のページを新たに追加
「バアちゃんの世界」	認知症啓発ショートムービーの提供
「ふくサポ®」 (副作用管理支援デジタルツール)	免疫チェックポイント阻害薬で治療を受けている患者さんの体調管理を通して、副作用（特に免疫関連有害事象）の早期発見・早期治療の手助けとなる支援ツールの無償提供

『Changeの瞬間（がんサバイバーストーリー）』

当社は、2020年4月より、がんサバイバーから学ぶ「今」と「未来」について情報発信するラジオ番組『Changeの瞬間（とき）』を提供しています。各方面で活躍されている著名ながんサバイバーをゲストに迎え、がんがわかったときの気持ちや、どんな想いでがんに向き合うようになり、どんなきっかけで前向きになれたのかなどを語っていただいています。がん闘う全ての方に希望のボタンをつなぎたいという想いを込め、番組を通して、がん患者さんやがんサバイバーを応援しています。



 2023年3月31日新聞広告（3.6MB）

リレー・フォー・ライフ

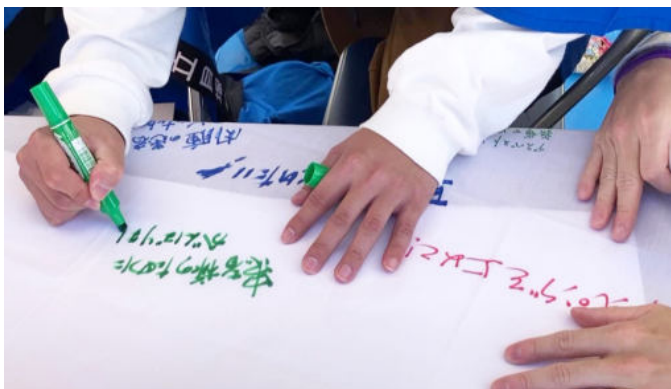
2014年度から、CSR活動の一環としてリレー・フォー・ライフ（RFL）に参加しています。リレー・フォー・ライフは、日本対がん協会とリレー・フォー・ライフの全国実行委員会が実施しているチャリティ活動であり、がんと向き合い、がん征圧を目的として、実施されているものです。当社の研究所や工場、営業所がある開催場所を中心に、社員が積極的に参加しています。



新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度から多くのエリアでリレー・フォー・ライフの開催が中止となりました。毎年このイベントを心待ちにしているがんサバイバーや参加者の方々の想いを繋ぎ、がん患者さんとそのご家族への支援を継続するために、例年のリレー・フォー・ライフに代わって2020年度からセルフウォークリレー（SWR）が開催されました。

セルフウォークリレーはスマートフォンにアプリを登録し、各自が感染対策を講じながら歩き、その参加費ががん患者さんやご家族からの不安の声や相談に応じる『がん相談ホットライン』の運営支援に繋がるという、誰でも気軽に参加できるチャリティイベントです。2022年度には前年の294名に比べ大幅増となる全国430名の社員が参加し、その参加費は『がん相談ホットライン』の運営に充てられました。

また、2022年度からはリレー・フォー・ライフへの参加を再開し、新たな試みとして「メッセージフラッグ」を始めました。「メッセージフラッグ」には参加者の皆さんから当社社員への想いを綴っていただき、参加者の皆さんとのコミュニケーションにつながりました。2023年度はさらに多くの地域でリレー・フォー・ライフに参加し、がん患者さんとそのご家族への支援を強化していきます。



そらぶちキッズキャンプへのサポート

当社は2014年度より、病気とたたかう子どもたちのための夢の医療ケア付キャンプ場を運営する公益財団法人「[そらぶちキッズキャンプ](#)」（北海道滝川市）を賛助会員として継続的にサポートしています。

2021年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンプ運営を縮小せざるを得なくなった中で始まった新しい企画「スノーギフト」へのサポートを行っています。スノーギフトはキャンプ場のさらさらの新雪を箱に詰め、雪の降らない地域の医療機関に入院中の子どもたちに届けて雪遊びを楽しんでもらうという企画です。病院内でのスムーズな荷物の受け渡しができず、箱詰めの手配がとけてしまうケースがあったため、日頃から病院に訪問・活動している当社MRが宅配業者から荷物を受け取り、医療機関の担当者へ直接「新雪」を届ける「雪運びボランティア」としてのサポートを行っています。

2022年度は2023年1月～2月にかけて、10施設の医療機関において当社のMRが担当者に「そらぶちキッズキャンプ」からのスノーギフトを手渡しで届け、雪に触れる機会のない入院中の子どもたちに雪遊びの楽しさをプレゼントすることができました。後日、雪遊びをした子どもたちや保護者、医療スタッフから喜びの声や手紙が届けられ、参加した社員からは、「楽しさ（雪）を届ける」お手伝いできてよかったとの感想が寄せられました。



“Nutrition care box”をがん患者さんへ届ける活動

台湾小野薬品（OPTW）では、コロナ禍の影響で患者さんと一緒に行う活動は控えましたが、がんと闘っている患者さんへの想いを“Nutrition care box”に込めて届ける活動を行いました。

“Nutrition care box”とは、患者さんの栄養状態の改善を目的に、野菜や穀物、卵などを入れたギフトボックスを称したものです。“Nutrition care box”には、食材だけではなく、各社員が患者さんへ想いを込めたメッセージを書き、同封しました。参加社員は事前に、財団法人台湾癌症基金会の栄養士の方から、がん患者さん向けの食事（栄養学）についての講義を聴講し、医薬品による治療とは異なる視点から、がん患者さんについて知る機会になりました。

また、新型コロナ蔓延の影響で社員が一堂に会する機会が激減した中、全社員で患者さんの心のケアに対して取り組んだことで社員の一体感がさらに強まりました。後日、“Nutrition care box”を受け取ってくださった患者さんから写真を受け取り、改めて活動の意義を感じることができました。



米国でのがん患者さんの支援活動

ONO PHARMA USAでは、がん患者さんとその支援者やがんサバイバーの方々を支援するため、従業員が協力して社会貢献活動に取り組んでいます。

2021年度から2022年度にかけて米国血液学会ASH（American Society of Hematology）が開催する[ASH Foundation Run/Walk](#)やThe Leukemia & Lymphoma Societyが開催する[Light The Night Walk](#)に参加しました。参加費は、血液がん患者さんの治療支援や研究資金として役立てられます。

これらのイベントへの参加は、従業員が患者さんや支援者の声を聞き、想いを共有する貴重な機会にもなっています。



献血への取り組み

当社では、日本赤十字社の献血活動に積極的に協力しています。2022年度も生産事業所、研究所および本店において、新型コロナウイルス感染対策を行い、献血に協力しました。なお、水無瀬研究所においては、長年の献血協力が評価され、日本赤十字社より銀色有功章を授与されました。

あらゆる生命の存続に資する環境保全

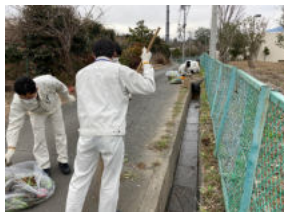
当社では、事業活動を行ううえで、生態系に及ぼす影響を認識するとともに、生物多様性や気候変動などの環境課題の解決に向けて取り組んでいます。持続可能で豊かな社会の実現のため、製品の研究・開発・調達・生産・流通・販売・使用・廃棄にわたるすべての段階において、生物多様性に配慮した活動を推進することが重要であると考えており、当社は「[経団連生物多様性宣言・行動指針](#)」にも賛同しています。

また、各事業所で、清掃活動や防災活動、自然保護活動をはじめとするさまざまな地域社会貢献活動に取り組んでいます。

各事業所における取り組み

フジヤマ工場では、地域環境に配慮した活動として、富士宮市各自治会の清掃活動「ごみ一掃作戦」および「富士宮市清掃運動」で使用するゴミ袋を提供しています。また、2023年3月に工場敷地の外周の清掃を行いました。

山口工場では、山口市の佐山地区地域づくり協議会が主催する「佐山地区ごみゼロ大作戦2022」に参加し、地域環境の美化に協力しました。



フジヤマ工場



提供ゴミ袋



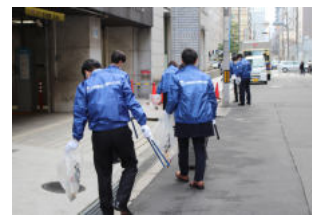
山口工場

本社および城東製品開発センターでは、2022年度、大阪市が主催した市内一斉清掃キャンペーン「大阪マラソン”クリーンUP”作戦」に参加し、事業所周辺や近隣の公園を清掃しました。

また、城東製品開発センターでは、危険物安全週間に伴う東成消防署との合同訓練（自衛消防隊訓練と東成消防署消防隊訓練）を実施し、消火器操作と救急救命法について東成消防署の指導の下、実際の災害に備えた訓練を行いました。



城東製品開発センター



本社

筑波研究所では、筑波北工業団地企業連絡協議会に加盟しており、北部工業団地内の美観を保つため、加盟企業による一斉清掃を行っています。2022年度、当社も研究所周囲の清掃を行いました。



筑波研究所



子どもたちの健康につながる教育

当社は、未来を担う子どもたちの育成を支援するための教育活動に積極的に取り組んでいます。

理科の出張授業（薬のヒミツ・マナブ）

理科の学習や実験、ならびに薬への興味関心を高めることを目的として、小学校6年生を対象に薬をテーマとした出張授業を行っています。本出張授業では、どんな人が研究に携わっているのかを子どもたちに身近に感じてもらうため、講師および各班の実験サポートスタッフは、全て当社の研究員が担当しています。本出張授業は、水無瀬研究所の近くにある島本町立第三小学校においては2015年度から、城東製品開発センターに隣接している宝栄小学校においては2019年度から実施しています。2022年度も、小学校からの強い要望に応えるために、きめ細かい感染予防対策を実施し、問題なく出張授業を実施することができました。実施後の児童の感想から、多くの子どもたちは新薬が患者さんに届くまでに長い年月がかかることや、薬には様々な工夫が詰まっていることに驚きを感じたようです。また、「将来、研究者を目指したい」などの感想もあり、本出張授業が子どもたちに将来の職業を考えるきっかけになっていることを嬉しく思っています。参加した当社スタッフにとっても、地域社会とのつながりの重要性を再認識するとともに、児童の反応を直に感じることで研究者としての初心を思い出すなど、貴重な体験となりました。

年度ごとの参加人数	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
児童	72名	141名	81名	135名	123名
講師・実験サポートスタッフ	12名	25名	9名	17名	24名
事務局スタッフ	10名	22名	6名	9名	8名

なお、出張授業実施後に、児童と先生、当社スタッフにアンケートを実施し、次年度以降のプログラム改善に活用しています。



宝栄小学校での実施



島本町立第三小学校での実施

高等学校でのがん教育に対する取り組み

文部科学省の学習指導要領改訂により、2022年度から高等学校においても「がん教育」が本格的にスタートしました。当社は、がん治療薬の研究開発、製造、販売を通じて人々の健康への貢献に取り組む製薬企業として、高校生にがんの正しい知識を身につけてもらえるよう、高等学校での「がん教育」に関する取り組みへのサポートを行っています。

当社のがん教育に関する取り組みについては、[こちら](#)をご参照ください。



歯ブラシの寄贈

当社では、歯を健康に保つことが健康寿命の延伸に繋がることを鑑み、子どもたちの口腔衛生の改善に寄与することを目的に、当社関係会社(株)ビーブランド・メディコーデンタル社製品の歯磨きセットおよび歯ブラシを子どもたちに寄贈しています。本活動は「歯と口の健康週間（6月4～10日）」にあわせて実施しており、2022年度は歯ブラシセット3,601セット、歯ブラシ346本を寄贈しました。地域と企業が共に発展することを大切に、活動を継続していきたいと考えています。

所在地	対象	開始年	当社関連拠点
大阪府三島郡	小学校・幼稚園・保育所（2022年度は17施設）	2014年	水無瀬研究所
大阪市東成区	宝栄小学校	2018年	城東製品開発センター

劇団四季／一般財団法人舞台芸術センター主催の「こころの劇場」への協賛

当社は劇団四季／一般財団法人舞台芸術センターが主催する「こころの劇場」の趣旨に賛同し、関西公演への協賛を行っています。「こころの劇場」は、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、人が生きていく上で最も大切なものを、舞台を通じて子どもたちの心に語りかけることを目的に、日本全国の子どもたち（主に小学6年生）を無料で劇場に招待し、演劇の感動を届けるプロジェクトです。「こころの劇場」は新型コロナウイルス感染症の影響により2022年度は2021年度と同様、動画配信で実施されています。



2022年度「人間になりたがった猫」